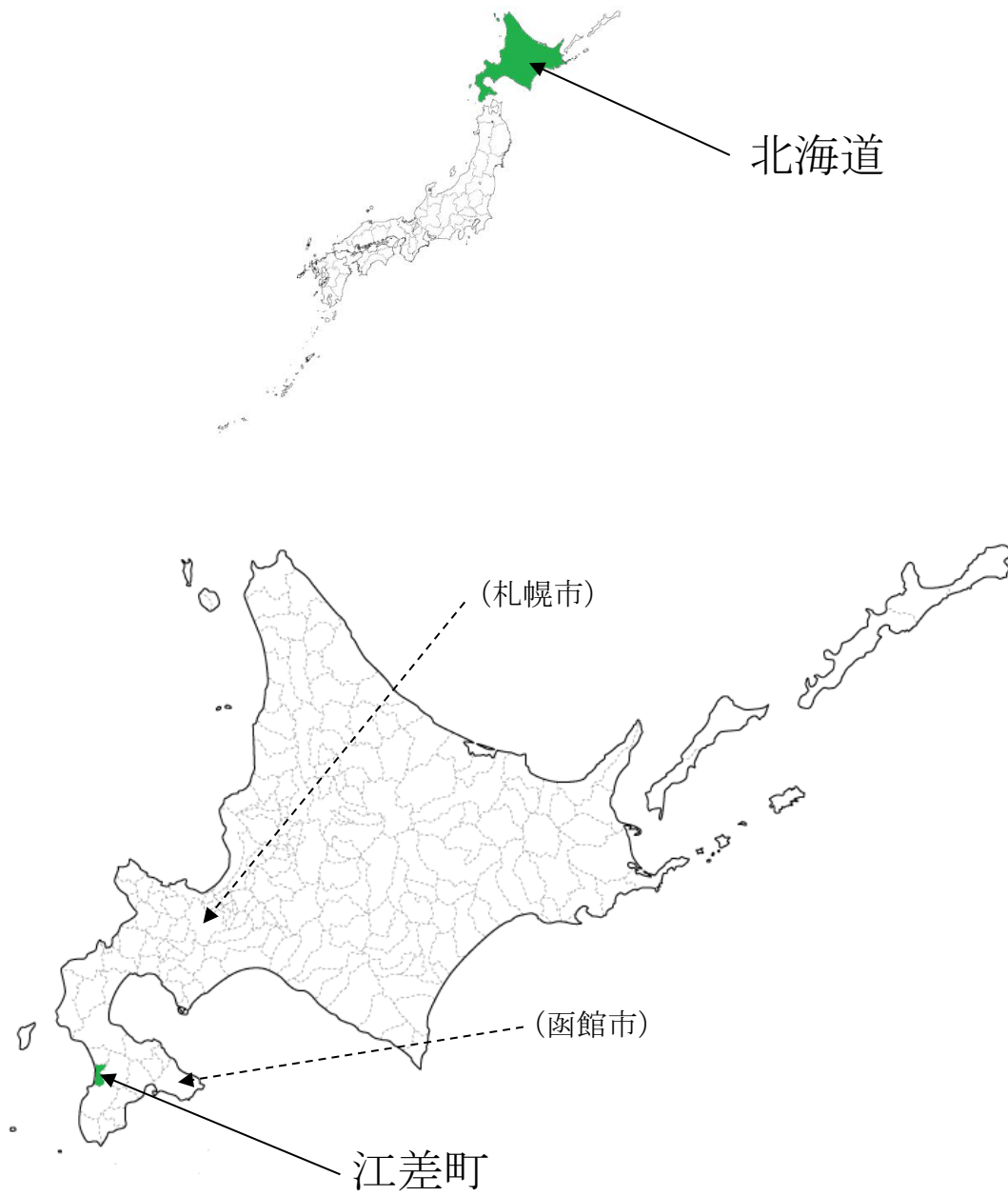


① 申請者	江差町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
江差の五月は江戸にもない ニシンの繁栄が息づく町ー			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
江差の海岸線に沿った段丘の下側を通っている町並みの表通りには、切妻屋根の建物が建ち並び、暖簾・看板・壁にはその家ごとの屋号が掲げられている。緩やかに海側へ下っている地形にあわせて蔵が階段状に連なり、海と共に生きてきた地域であることがうかがえる。 この町並みは、江戸時代から明治時代にかけてのニシン漁とニシン加工品の交易によって形成されたもので、その様は「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどであった。 ニシンによる繁栄は、江戸時代から伝承されている文化とともに、今でもこの地域に色濃く息づいている。  ニシンによる繁栄が息づく江差の町並み  ニシンを用いた食文化			

市町村の位置図（地図等）



構成文化財の位置図（地図等）

※構成文化財がある地域を拡大し、構成文化財の位置を示す

（様式 3 - 1 の番号に対応させること）



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)

■拡大図 1



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)

■ 拡大図 2



出展：国土地理院ウェブサイト (<http://www.gsi.go.jp/>)

※複数ページにわたっても可

ストーリー

1. 江差テイスト

江差町は北海道南西部に位置し、日本海に面しています。

海岸線に沿った段丘の下側には、切妻屋根の建物が建ち並ぶ町並みが伸び、それらの建物の暖簾・看板・壁には、簡単な記号を組み合わせさせて表現される屋号が掲げられています。その読み方を考えながら散策すると町並み歩きも一層楽しむことができます。

町並みから海側へ降る坂道の小路に入ると、建物が土地の傾斜に沿って階段状に下がって、基礎の石垣も建物ごとに段差が付いていることがわかります。建物は木造のように見えますが実は漆喰壁の土蔵造りで、冬の激しい風雪から漆喰壁を守るために、建物全体を組み合わせた板で覆っています。深い青色をした石組みの基礎も見事です。

段丘に登り振り返ってみれば、赤や黒の瓦屋根の向こうにカモメが羽を広げた形をしているかもめ島を望むことができ、その眺望に感動します。

これらのテイストは、江差の地形とニシンの産業が創り出したもので、江戸を凌ぐともいわれた繁栄を伝えるものなのです。

2. 江差発展の基、ニシン漁と交易

江戸時代前期の江差は、海岸沿いに小さな村が連なる人口も少ない所でしたが、ニシンがやってきたことによって繁栄していきます。

1670年ごろの様子を記した『津軽一統史』には、ニシン漁場の江差には、道内だけでなく東北地方からも漁民や商人が集まってきている、と記されています。

江戸時代に江差を治めていた松前藩は、豊かなニシン漁場であることや、江差沖に浮かぶかもめ島が天然の防波堤として使えることから、江差をニシン加工品などを扱う藩指定の交易港としました。海岸段丘の下側に這うように伸びている、暮らすには不向きな狭い傾斜地に町並みが作られていったのは、ニシンをメインにして作られたからなのです。

ニシン漁と交易がますます隆盛になっていくと、近江国（滋賀県）や北陸地方から多くの商人が江差に渡ってきました。今でも、町並みに面した商家の店や、その奥に続くニシン蔵を見ることができますが、それらは本州から渡ってきた商人が遺した建物です。

もっとも海側にある蔵は「ハネダシ」と呼ばれ、その外壁にはかもめ島に停泊した交易船からも取引先の商家がわかるように、大きな屋号が掲げられました。この屋号は、商家の暖簾や漁家のニシン漁具など様々な道具にも記されました。



江差市街地とかもめ島



切妻屋根が建ち並ぶ町並み



傾斜地に階段状に下がっている蔵と小路



かもめ島にある江戸時代の交易港跡



壁に掲げられた屋号

建物の基礎や社寺の参道などには、雨に濡れるとより深い青みを増す、越前国（福井県）で産出された^{えちぜんのかに}笏谷石が用いられています。このような石材は、近在で代替品をまかなうこともできましたが、経済的に発展していた当時の江差では自前で調達するのではなく、商品として購入するほうが手取り早かったのです。

また、建物の屋根には、若狭国（福井県）^{わかさのかに}・能登国（石川県）^{のとのくに}・石見国（島根県）^{いわみのくに}などで作られた様々な^{かわら}瓦が葺かれていて、段丘の上から見ると赤や黒など様々な色彩の瓦屋根を楽しむことができます。

町並みの所々には、海側へ出るための小路が伸びています。ニシン漁は早春に行われましたが、江差の浜にニシンがやってくると、近隣から漁民がやってきて漁をしますが、その時には町並みに暮らす商家の人たちもこの小路を通して浜へ出て、漁を手伝いました。

3. 発展による文化の展開と伝承

ニシンの漁と交易で繁栄した江差には、ニシン漁が行われるようになった由来を語り継ぐ伝説や、ニシン漁に関係する芸能など、この地で生まれた文化が伝わっています。

また、交易船に乗っていた人達によって伝えられた唄が江差の情景に合わせた歌詞に変わったり、本州の食文化が江差の産物を用いたものに変わったりと、交易や移住者によってもたらされた各地の文化がこの土地の風土に合わせた形で伝承もされています。

また、繁栄によって豪華になっていった祭礼や年中行事なども、江戸時代から現在にまで連綿と伝承されています。

4. ニシンの繁栄が色濃く残る町、江差

このように、江差はニシン漁とその交易によって繁栄をしました。

江戸時代後期に江差を訪れた^{ふるかわこしょうけん}古川古松軒は、江差の町並みは端までも貧家がなく、浜辺にも蔵が建ち並んでいる、江戸を出てから建物・人物・言語など江差ほど良い場所はない、と『東遊雑記』^{とうゆうざっき}に記しています。

ニシン漁が終わり、ニシン加工品を求めて各地から交易船や人々が江差港にやってくる旧暦5月ごろの賑わいは、後に「江差の五月は江戸にもない」と謳われるほどでした。

町並みを歩き、文化に触れ、交易船の停泊港でもあったかもめ島を散策して対岸に広がる江差の町を臨めば、今でも色濃く残るニシンによる繁栄を体感することができます。



深い青みが特徴の笏谷石



様々な色彩の屋根瓦



ニシン漁の様子を伝える
江差沖揚音頭



繁栄により豪華に
なっていた祭礼



ニシンを材料とした食

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
1	えさし まちな 江差の町並み	未指定	海岸段丘の下側に伸びている町並み。 津花岬を角としてL字型に展開している。 ニシン交易を担った商家が切妻屋根を揃えて建ち並んでいる。 建物の暖簾・看板・壁には家ごとの屋号が掲げられている。	
2	きゅうなかむらけじゅうたく 旧中村家住宅	国重文	おうみ 近江商人のおおはし 大橋家が設けた出店で、後に中村家へ譲られた。 通りに面した主屋だけが店と住居で、残りの3棟は交易品などを保管する漆喰塗りの蔵。 屋根には灰色の若狭瓦が葺かれている。	
3	えさしうばがみちようよこやまけ 江差姥神町横山家	道有民	のとのくに 能登国(石川県)から移り住んできた横山家が構えた店。 通りに面した主屋以外は、交易品などを保管する蔵が一行に立ち並んでいる。	
4	きゅうひやまにしぐんやくしよちょうしゃ 旧檜山爾志郡役所庁舎	道有形	明治20年(1887)に建てられた北海道庁の出先機関。 洋風建築であるが、基礎には深い青色の笏谷石が、屋根には黒い能登瓦が用いられていて、ニシン交易の影響をうかがうことができる。	
5	かもめ しま かもめ島	未指定	江差市街地の沖に浮かぶ南北に細長い島。 外洋からの風濤を防ぐ天然の防波堤であり、交易発展の基となった。	
6	おりいでんせつ 折居伝説とその資料	未指定	江差にニシンがやってくるようになった由来を語る「折居伝説」を示す古文書や絵画資料。	

7	へいし いわ 瓶子岩	未指定	「折居伝説」で語られる岩。神から託された瓶子 ^{へいし} が岩と化したもの。	
8	うばがみだいじんぐう 姥神大神宮	未指定	「折居伝説」でニシンをまねいた姥 ^{うば} が祀っていた神像を、江差の人々が皆で祀るようになったとの由緒を持つ神社。	
9	きたまえぶねけいせんはしらおよ とうあと 北前船係船柱及び同跡	町史跡	かもめ島の北東にあるニシン交易船の係船跡 ^{けいせん} 。	
10	いつくしまじんじゃ 巖島神社	未指定	かもめ島に係船したニシン交易船の乗員たちが、航海安全を祈願した神社。 慶長 20 年 (1615) 創建。	
11	いつくしまじんじゃ いしどりい 巖島神社の石鳥居	未指定	加賀国橋立 ^{かはがのくにはしだて} (石川県加賀市) の船頭たちが寄進 ^{きしん} をした鳥居。 天保 9 年 (1838) の建立。	
12	いつくしまじんじゃ ちょうずいし 巖島神社の手水石	未指定	江差商人の村上家 ^{むらかみ} と取引をしていたニシン交易船関係者が寄進 ^{きしん} をした手水石。 安政 6 年 (1859) 年の建造。	
13	かもめ島 ^{じま} の階段跡 ^{かいだんあと}	未指定	かもめ島の島上にある巖島神社 ^{いつくしまじんじゃ} へ参るための階段。 ニシン交易船の乗員が航海安全を願うため、江戸時代から設けられていた。	
14	えさししょうにん えんせきあと 江差商人の宴席跡	未指定	かもめ島の西側に広がる「千畳敷」 ^{せんじょうじき} に掘られた 8 つの柱穴。 ニシン交易で利益を上げた江差商人は、この地に仮小屋を建てて宴を催していた。	
15	ニシン ^{りょう} 漁とニシン ^{こうえき} 交易の古文書 ^{こもんじよ}	未指定	江差のニシン漁とニシン交易について記録した古文書資料。	
16	えさしおきあげおんど 江差沖揚音頭	道無民	江差繁栄の基 ^{もと} となったニシン漁の様を現在に伝える民俗芸能。	

17	えさしきめおど 江差鮫踊り	町無民	漁民がニシン漁の邪魔をするサメを 駆除していたが、その霊を慰めるた め行われたという民俗芸能。	
18	えさしおいわけ 江差追分	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってき た船乗りたちによって伝えられたと いう民謡。	
19	えさしおいわけおど 江差追分踊り	町無民	江戸時代末、江戸から興行でやってき た歌舞伎役者によって振付けられた という、「江差追分」に合わせて踊ら れる芸能。	
20	えさしさんさが 江差三下り	道無民	ニシン交易で栄えた江差へやってき た船乗りによって伝えられたという 民謡。	
21	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭	町無民	江戸時代から伝わる姥神大神宮の祭 礼。	
22	えさしうばがみだいじんぐうさいれい や ま 江差姥神大神宮祭礼山車 まつほうまるおよ ふぞくひん 松寶丸及び附属品	道有民	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭に出される山車。 弘化2年(1845)に作られ、交易船を かたどっている。	
23	えさしうばがみだいじんぐうさいれい や ま 江差姥神大神宮祭礼山車 じんこうざんにんぎょうおよ ふぞくひん 神功山人形及び附属品	道有民	うばがみだいじんぐうとぎよさい 姥神大神宮渡御祭に出される山車に 載る人形。 宝暦年間(1751～1764)に作られたと され、神功皇后をかたどっている。	
24	えさしもち 江差餅つき囃子	道無民	ニシン交易で繁栄していた商家で行 われていた年末の餅つきの様子を伝 える民俗芸能。	
25	さんべいじろ 三平汁	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料 理。塩漬けや糠漬けにしたニシンを 様々な野菜とともに煮たもの。	
26	ニシン漬け	未指定	豊富に獲れたニシンを用いた郷土料 理。身欠きニシンと様々な野菜を とともに漬けたもの。	

(※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、
県有形、市無形等)。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明になら

ないように注意すること)。

- (※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

1. 江差の町並み



4. 旧檜山爾志郡役所庁舎



2. 旧中村家住宅



5. かもめ島



3. 江差姥神町横山家



6. 折居伝説とその資料



7. 瓶子岩



10. 巖島神社



8. 姥神大神宮



11. 巖島神社の石鳥居



9. 北前船係船柱及び同跡



12. 巖島神社の手水石



13. かもめ島の階段跡



16. 江差沖揚音頭



14. 江差商人の宴席跡



17. 江差鮫踊り



15. ニシン漁とニシン交易の古文書



18. 江差追分



19. 江差追分踊り



22. 江差姥神大神宮祭礼山車松寶丸及び
附属品



20. 江差三下り



23. 江差姥神大神宮祭礼山車神功山人形
及び附属品



21. 姥神大神宮渡御祭



24. 江差餅つき囃子



25. 三平汁



26. ニシン漬け



※複数ページにわたっても可

(5) 地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化																																													
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）																																													
具体的な指標：	国内観光客																																													
目標値：	平成 27 年度 335 千人					⇒	平成 34 年度 485 千人																																							
設定根拠：	◆平成27年度の観光入込み数が335千人 ◆今年度は、北海道新幹線開業効果で、上半期の入込み数が前年度4％の伸び ◆日本遺産認定と地域活性化計画の遂行で対前年比の伸び率6％を維持 <table><tr><td></td><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>H31</td><td>H32</td><td>H33</td><td>H34</td></tr><tr><td>年間観光客入込数（千人）</td><td>335</td><td>348</td><td>362</td><td>384</td><td>407</td><td>432</td><td>458</td><td>485</td></tr><tr><td>対前年比（％）</td><td></td><td>4.0</td><td>4.0</td><td>6.0</td><td>6.0</td><td>6.0</td><td>6.0</td><td>6.0</td></tr><tr><td></td><td>実数</td><td colspan="7">見込み数</td></tr></table>											H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	年間観光客入込数（千人）	335	348	362	384	407	432	458	485	対前年比（％）		4.0	4.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0		実数	見込み数						
	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34																																						
年間観光客入込数（千人）	335	348	362	384	407	432	458	485																																						
対前年比（％）		4.0	4.0	6.0	6.0	6.0	6.0	6.0																																						
	実数	見込み数																																												
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化																																													
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）																																													
具体的な指標：	外国人観光客																																													
目標値：	平成 27 年度 119 人					⇒	平成 34 年度 20,000 人																																							
設定根拠：	◆平成27年度の函館市の観光入込み客数推計によると、外国人観光客が39万7千人 ◆そのうち、地域活性化計画の遂行で5％を江差へ引き込む ◆中でも入込みの5割以上を占める台湾への集中的な売り込みを行うことで目標値を達成する																																													
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化																																													
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）																																													
具体的な指標：	地域文化に関する住民意識調査による「地域文化に誇りを感じる」の割合																																													
目標値：	平成 28 年度 10 ％					⇒	平成 34 年度 22 ％																																							
設定根拠：	◆平成22年度数値は、現総合計画策定時に実施したアンケートで「まちづくりに特に重要な項目」で「文化財や史跡の伝承保存」と回答した値8％を参考とする ◆平成28年度時点で「誇りを感じる≒10％」と仮定し、日本遺産認定と地域活性化計画の経済効果を周知することで毎年2％の伸びを設定																																													
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化																																													
計画評価指標：	小・中学生における日本遺産の認知度（具体的な指標は次のとおり）																																													
具体的な指標：	◆小学4年生から中学3年生までの児童・生徒へ「日本遺産」に関するアンケートを実施する																																													
目標値：	平成 28 年度 - ％					⇒	平成 34 年度 75 ％																																							
設定根拠：	◆現在進めている「ふるさと学習」の推進に合わせ日本遺産の取り組みを伝えていく ◆平成29年度認定後、秋時点で「日本遺産を知っている≒50％」とし、毎年5％の伸びを設定																																													
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立																																													
計画評価指標：	日本遺産への協力者数（具体的な指標は次のとおり）																																													
具体的な指標：	◆見るだけでは伝わらない町の魅力について得意なテーマを切り口に、独自の語り口で地域の歴史文化を紹介する町民を登録し「100人の語り部」として活動できる体制を整備する																																													
目標値：	平成 28 年度 10 人					⇒	平成 34 年度 100 人																																							
設定根拠：	◆現在、住民団体が取り組んでいる「100人の語り部」について、協議会も参画しながら体制の整備と観光客との接点を整備する																																													

設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	江差観光まちづくり推進協議会運営の異業種間連携による地域特産物（新規土産物）の開発			
目標値：	平成 28 年度	- 件	⇒	平成 34 年度 15 件
設定根拠：	◆協議会議論の活性化により、平成30年以降毎年3品の伸び			
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	日本遺産のためのふるさと納税額（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	納税額			
目標値：	平成 28 年度	50 百万円	⇒	平成 34 年度 88 百万円
設定根拠：	◆平成29年度50百万円（12月末時点で45百万円。1月から3月までは前年度実績を上積み） ◆江差ファンの増と返礼品の充実により、毎年1割の伸びを設定			
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	その他（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	江差観光まちづくり推進協議会運営資金			
目標値：	平成 28 年度	0 千円	⇒	平成 34 年度 5,000 千円
設定根拠：	◆ふるさと納税額から経費を差し引いた額の2割、500万円を上限として運営資金化（経費が約7割。平成34年→88百万円×3割×2割≒5,280千円）			
設定目標Ⅳ：	その他			
計画評価指標：	雇用の創出（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	観光まちづくり会社の実現による雇用者数			
目標値：	平成 28 年度	- 人	⇒	平成 34 年度 3 人
設定根拠：	◆江差エコシステムプロジェクトの推進で平成31年度に会社を設立			

(6) 日本遺産魅力発信推進事業

事業①：ポスターの製作・関東圏駅構内への掲出			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成29年度：5,616千円	平成30年度：3,564千円	平成31年度：3,564千円
(積算)	◆制作委託費一式2,052千円 ◆印刷費594千円 [JR駅用 (B1) 5種×25枚、北海道新幹線用 (A2) 1種×100枚、モノレール用 (B3) ×130枚] ◆媒体料2,970千円 (詳細右の通り)	◆印刷費594千円 (詳細左の通り) ◆媒体料2,970千円 JR駅用2,052千円 (B1=5種×7日間×8駅) 北海道新幹線用594千円 (A2=1編成×2枚×1か月) モノレール用324千円 (B3=114車×1枚×1か月)	◆印刷費594千円 (詳細左の通り) ◆媒体料2,970千円 JR駅用2,052千円 (B1=5種×7日間×8駅) 北海道新幹線用594千円 (A2=1編成×2枚×1か月) モノレール用324千円 (B3=114車×1枚×1か月)
事業概要：	◆日本遺産認定のアピール用ポスター5種類の制作 ◆JR東京駅他7駅、北海道新幹線車両、モノレールへ掲載 ◆関東圏をターゲットとした積極的な情報発信により江差の知名度や集客の向上を図る		
評価指標区分：	その他		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 27 年度 35 万人 ⇒ 平成 34 年度 50 万人		
事業②：多言語化「日本遺産紹介サイト」の開設			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度：4,320千円	平成30年度：0千円	平成31年度：0千円
(積算)	新規作成経費一式		
事業概要：	◆日本を目指す外国人観光客が容易にたどり着けて、高いクオリティのサイトを開設 ◆主要 5 言語 (英語、中国簡体、中国繁体、韓国語、日本語) による「日本遺産情報」に特化したサイト		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数 (PV数)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	Instagram、フェイスブックでのページビュー		
目標値：	平成 28 年度 0 万回 ⇒ 平成 34 年度 50 万回		
事業③：ウェブサイト誘導メディア広告			
事業区分：	情報発信		事業期間：平成 30 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成29年度：0千円	平成30年度：2,700千円	平成31年度：2,700千円
(積算)		◆広告料 TABILABO 1,620千円 (3週間) Instagram540千円 (2か月) フェイスブック 540千円 (2か月)	◆広告料 TABILABO 1,620千円 (3週間) Instagram540千円 (2か月) フェイスブック 540千円 (2か月)
事業概要：	◆平成29年度制作したウェブサイトを誘導メディアへ広告 ◆ターゲットとしては海外、特に台湾ユーザーへのアプローチを目指す ◆検索側の情報を的確に把握し、コンテンツの変更と追加へ反映		
評価指標区分：	ホームページ閲覧数 (PV数)		(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	TABILABO、Instagram、フェイスブックでのページビュー		
目標値：	平成 28 年度 0 万回 ⇒ 平成 34 年度 50 万回		

事業④：FIT型インバウンド観光客誘致事業						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度		
補助金額：	平成29年度：	4,447千円	平成30年度：	2,500千円	平成31年度：	800千円
(積算)	◆制作委託費一式2,160千円 ◆チラシ（A3判）907千円 （@12円×7万枚×1.08） ◆グッズ制作委託 1,080千円 ◆旅費・謝礼一式 300千円 ニセコ地区キーオピニオンリー ダー招致(夏、冬計2回)		◆ブロガー招聘一式2,000千円 ◆道内大学留学生モニターツ アー500千円 （@50千円×5人×夏・冬2回）		◆旅費・謝礼一式 300千円 ニセコ地区キーオピニオンリー ダー招致(夏、冬計2回) ◆道内大学留学生モニターツ アー一式500千円 （@50千円×5人×夏・冬2回）	
事業概要：	◆欧米系を中心としたFIT型のインバウンド旅行客を引き付ける素材を見つけ出す ◆1年目は地域資源の再発見、ブラッシュアップ、および誘致のためのツール（パンフレット・ポスター・グッズ等）を多言語（5カ国語）で開発 ◆2年目は道内大学への留学生を招き江差の魅力素材調査とブロガー等の発信力のある外国人を招いての情報発信 ◆3年目は1～2年目に探した素材の受け入れ態勢を整備し、検証					
評価指標区分：	外国人入込み数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	外国人観光客					
目標値：	平成 28 年度 0 万人 ⇒ 平成 34 年度 2 万人					
事業⑤：台湾旅行客を意識した誘客事業						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成29年度：	2,553千円	平成30年度：	2,322千円	平成31年度：	0千円
(積算)	◆委託料～内容考察、コーディネート管理一式1,134千円 ◆対象者旅費・滞在費一式1,419千円		◆掲載料 エバー航空1,728千円 タイガーエア台湾594千円			
事業概要：	◆函館への外国人観光客40万人中22万人を占める台湾をメインターゲットとした誘客 ◆台湾旅行客にとって、江差の歴史的・文化的資源の魅力を見つけ出す ◆台湾旅行客向け地域素材を特集した台湾直行便機内誌への広告掲載					
評価指標区分：	外国人入込み数				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	外国人観光客					
目標値：	平成 28 年度 0 万人 ⇒ 平成 34 年度 2 万人					
事業⑥：KKベストセラーズ雑誌「日本遺産特集」掲載並びにパンフレット作成						
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度		
補助金額：	平成29年度：	0千円	平成30年度：	5,400千円	平成31年度：	0千円
(積算)			◆記事掲載委託費一式			
事業概要：	◆江差の日本遺産構成文化財の紹介を特集する記事の作成と掲載を依頼（フルカラー8P） ◆記事内容をリーフレット化してイベントなどでの歴史的・文化的資源を紹介（2,000部） ◆町民向け講座資料としての活用					
評価指標区分：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）				(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	自主事業活用のための増刷					
目標値：	平成 29 年度 部 ⇒ 平成 34 年度 5,000 部					

事業⑦： 「日本遺産」映像制作並びに番組放送				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度： 0千円	平成30年度： 5,594千円	平成31年度： 0千円	
(積算)		◆マスター映像制作・番組放映委託 一式 5,594千円		
事業概要：	◆日本遺産紹介テレビ番組での情報発信 ◆映像は日本遺産を紹介するマスター映像として2次利用			
評価指標区分：	その他			(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	観光客入込み数			
目標値：	平成 28 年度 35 万人 ⇒ 平成 34 年度 50 万人			
事業⑧： マスター映像を利用した多言語化プロモーションビデオの制作				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
補助金額：	平成29年度： 0千円	平成30年度： 3,240千円	平成31年度： 0千円	
(積算)		◆制作委託 (@600千円×5言語×1.08)		
事業概要：	◆マスター映像を多言語化し動画サイトへ掲示 ◆主要5言語(英語、中国簡体、中国繁体、韓国語、日本語)による ◆外国人に対する「E S A S H I」の周知			
評価指標区分：	外国人入込み数			(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	外国人観光客			
目標値：	平成 27 年度 0 万人 ⇒ 平成 34 年度 2 万人			
事業⑨： 日本遺産認定記念シンポジウム				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度： 2,806千円	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円	
(積算)	◆委託費 756千円 (イベント用パネル作製、@70×10枚×1.08) ◎シンポジウム江差開催 420千円 ◆旅費・報償420千円[発表者1名(札幌市)60千円、先進地パネラー360千円(@120×3名) ◎シンポジウム札幌開催1,630千円 ◆会場費 240千円 ◆旅費・報償 240千円[コーディネーター他(@60×4名) ◆郷土芸能派遣1,150千円 江差追分157千円(旅費60、報償費97)、江差沖揚音頭393千円(旅費220、報償費173)、江差餅つき囃子600千円(旅費340、報償費260)			
事業概要：	◆江差会場では平成27年度平成28年度認定の先進自治体を招いて資源の活用方策を探る ◆参加した町民が、自分の身近な資源が日本遺産として認定されたことによる意識を高める ◆札幌会場では道内初の認定として全道へ発信できる企画での開催			
評価指標区分：	日本遺産の認知度			(具体的な指標は次のとおり)
具体的な指標：	地域文化に関する住民意識調査による「地域文化に誇りを感じる」の割合			
目標値：	平成 28 年度 0 % ⇒ 平成 34 年度 50 %			

事業⑩： 認定記念「ニシンのぼり」「沿道のぼり」等活用計画策定・製作			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度： 9,828千円	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円
(積算)	◆製作委託9,100千円×1.08 「ニシンのぼり」@90×50本 展示用ミニチュア @16×200本 沿道のぼり@7×200本		
事業概要：	◆住民や観光客へのアピールとしての「のぼり」の活用方策を検討 ◆ニシンを鯉のぼりのように制作し、空からPR ◆町内の事業所・商店などへミニチュアを置いて日常において日本遺産をPR ◆沿道へ日本遺産PR用のぼりを設置		
評価指標区分：	日本遺産の認知度	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	小中学生に江差の日本遺産認定の認知度をアンケート		
目標値：	平成 28 年度	- % ⇒ 平成 34 年度	75 %
事業⑪： ITを活用したいにしえの江差体験コンテンツ制作			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
補助金額：	平成29年度： 10,000千円	平成30年度： 5,000千円	平成31年度： 5,000千円
(積算)	◆制作委託一式 プラットフォーム制作	◆制作委託一式 Aコンテンツ制作	◆制作委託一式 Bコンテンツ制作
事業概要：	◆ニシンで繁栄した時代を描いた「江差屏風」で往時の江差を体感できるようにするため、ARやVRといったITを活用し、地域資源情報を分かりやすく伝えるコンテンツと装置を製作		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	観光客入込み数		
目標値：	平成 28 年度	35 万人 ⇒ 平成 34 年度	50 万人
事業⑫： 「家印づくり」ほか体験プログラムの整備			
事業区分：	普及啓発	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
補助金額：	平成29年度： 2,678千円	平成30年度： 0千円	平成31年度： 0千円
(積算)	◆委託費 1,080千円 「家印づくり」制作に向けた環境整備費 一式1,000千円 ◆印刷製本費 1,080千円 「家印巡りマップ」の台紙作成1,080千円 (@200×5,000部×1.08) ◆使用料 518千円 体験用三味線 (@20千円×2台×12か月×1.08)		
事業概要：	◆街中を巡り散策しながら家印を探すマップの作成 ◆拠点で自分のイメージする「マイ家印」の制作に挑戦できるキットの開発 ◆江差追分会館で、来館者が郷土芸能の楽器である三味線に触れることができる環境づくり		
評価指標区分：	その他	(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標：	マイ家印にチャレンジする観光客		
目標値：	平成 28 年度	- 人 ⇒ 平成 34 年度	600 人

事業⑬：		日本遺産紹介拠点施設の整備				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 29 年度	～ 平成 29 年度	
補助金額：	平成29年度：	4,968千円	平成30年度：		平成31年度：	0千円
(積算)	◆請負費 4,600千円×1.08 開設板（大）製作設置費 (@350千円×8枚、90cm×180cm) 開設板（小）製作設置費 (@180千円×10枚、45cm×60cm)					
事業概要：	◆日本遺産を体感できる丘陵に位置する「旧檜山爾志郡役所」について日本遺産紹介拠点として整備					
評価指標区分：	施設への入込み数			(具体的な指標は次のとおり)		
具体的な指標：	設置施設における来館者の増加（旧檜山爾志郡役所を想定）					
目標値：	平成 28 年度	6 千人	⇒	平成 34 年度	20 千人	

（６）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	ポスターの製作・関東圏駅構内への掲出
事業概要：	◆日本遺産認定のアピール用ポスター5種類の制作 ◆JR東京駅他7駅、北海道新幹線車両、モノレールへ掲載 ◆関東圏をターゲットとした積極的な情報発信により江差の知名度や集客の向上を図る
事業②：	多言語化「日本遺産紹介サイト」の開設
事業概要：	◆日本を目指す外国人観光客が容易にたどり着けて、高いクオリティのサイトを開設 ◆主要5言語（英語、中国簡体、中国繁体、韓国語、日本語）による「日本遺産情報」に特化したサイト
事業③：	ウェブサイト誘導メディア広告
事業概要：	◆平成29年度制作したウェブサイトを誘導メディアへ広告 ◆ターゲットとしては海外、特に台湾ユーザーへのアプローチを目指す ◆検索側の情報を的確に把握し、コンテンツの変更と追加へ反映
事業④：	FIT型インバウンド観光客誘致事業
事業概要：	◆欧米系を中心としたFIT型のインバウンド旅行者を引き付ける素材を見つけ出す ◆1年目は地域資源の再発見、ブラッシュアップ、および誘致のためのツール（パンフレット・ポスター・グッズ等）を多言語（5カ国語）で開発 ◆2年目は道内大学への留学生を招き江差の魅力素材調査とブロガー等の発信力のある外国人を招いての情報発信 ◆3年目は1～2年目に採した素材の受け入れ態勢を整備し、検証
事業⑤：	台湾旅行者を意識した誘客事業
事業概要：	◆函館への外国人観光客40万人中22万人を占める台湾をメインターゲットとした誘客 ◆台湾旅行者にとって、江差の歴史的・文化的資源の魅力を見つけ出す ◆台湾旅行者向け地域素材を特集した台湾直行便機内誌への広告掲載
事業⑥：	KKベストセラーズ雑誌「日本遺産特集」掲載並びにパンフレット作成
事業概要：	◆江差の日本遺産構成文化財の紹介を特集する記事の作成と掲載を依頼（フルカラー8P） ◆記事内容をリーフレット化してイベントなどでの歴史的・文化的資源を紹介（2,000部） ◆町民向け講座資料としての活用
事業⑦：	「日本遺産」映像制作並びに番組放送
事業概要：	◆日本遺産紹介テレビ番組での情報発信 ◆映像は日本遺産を紹介するマスター映像として2次利用
事業⑧：	マスター映像を利用した多言語化プロモーションビデオの制作
事業概要：	◆マスター映像を多言語化し動画サイトへ掲示 ◆主要5言語（英語、中国簡体、中国繁体、韓国語、日本語）による ◆外国人に対する「E S A S H I」の周知
事業⑨：	日本遺産認定記念シンポジウム
事業概要：	◆江差会場では平成27年度平成28年度認定の先進自治体を招いて資源の活用方策を探る ◆参加した町民が、自分の身近な資源が日本遺産として認定されたことによる意識を高める ◆札幌会場では道内初の認定として全道へ発信できる企画での開催
事業⑩：	認定記念「ニシンのぼり」「沿道のぼり」等活用計画策定・製作
事業概要：	◆住民や観光客へのアピールとしての「のぼり」の活用方策を検討 ◆ニシンを鯉のぼりのように制作し、空からPR ◆町内の事業所・商店などへミニチュアを置いて日常において日本遺産をPR ◆沿道へ日本遺産PR用のぼりを設置
事業⑪：	ITを活用したいにしえの江差体験コンテンツ制作
事業概要：	◆ニシンで繁栄した時代を描いた「江差屏風」で往時の江差を体感できるようにするため、ARやVRといったITを活用し、地域資源情報を分かりやすく伝えるコンテンツと装置を製作
事業⑫：	「家印づくり」ほか体験プログラムの整備
事業概要：	◆街中を巡り散策しながら家印を探すマップの作成 ◆拠点で自分のイメージする「マイ家印」の制作に挑戦できるキットの開発 ◆江差追分会館で、来館者が郷土芸能の楽器である三味線に触れることができる環境づくり
事業⑬：	日本遺産紹介拠点施設の整備
事業概要：	◆日本遺産を体感できる丘陵に位置する「旧檜山爾志郡役所」について日本遺産紹介拠点として整備

（ 7 ） その他事業

事業①：	文化芸術による子供の育成事業				
機関・団体：	文化庁	：	文化部芸術文化課	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	町内公立小中学校 5 校の音楽の授業へ江差追分の師匠を派遣				
事業②：	地方創生推進交付金事業				
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	内閣府	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	地域資源を活用した観光の商品化により「地域で稼ぐ仕組み」を構築 ・ユニバーサルツーリズム推進に向けた環境整備 ・檜山管内 7 町と東京都特別区との連携事業 ・インバウンド対策を含めた観光ボランティアガイドの充実 ・空き家活用講習会並びに普及啓発				
事業③：	地域資源を活用した観光地魅力創造事業				
機関・団体：	民間団体	：	観光庁	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	地場産品を活かしながら、郷土の食を観光に活かすためのプロジェクト推進				
事業④：	地域づくり総合交付金事業				
機関・団体：	都道府県	：	北海道檜山振興局	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	いにしえ街道に接し、往時に海へ延びていた小路の環境整備などの観光客誘客対策ほか				
事業⑤：	北海道150年事業				
機関・団体：	都道府県	：	北海道	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	記念事業への江差追分をはじめとした郷土芸能の派遣				
事業⑥：	芸術文化振興基金助成金				
機関・団体：	民間団体	：	(独)日本芸術文化振興会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度
事業概要：	町内 9 つの郷土芸能を伝承するための事業				
事業⑦：	いきいきふるさと推進事業助成金				
機関・団体：	民間団体	：	(公財)北海道市町村振興協会	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	郷土芸能を通じた青森や道内団体との連携で江差追分などの資源を通じて日本遺産の普及促進				
事業⑧：	地方創生に向けて“がんばる地域”応援事業				
機関・団体：	民間団体	：	一般財団法人 地域活性化センター	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	木工芸技術者を活かした体験プログラムの構築				
事業⑨：	地域観光振興事業（受入整備）				
機関・団体：	民間団体	：	(公社)北海道観光振興機構	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度
事業概要：	観光従事者をはじめとした町民のインバウンド対策（各外国語の簡単な会話講座）				
事業⑩：	ふるさと学習推進事業				
機関・団体：	市町村	：	江差町	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	児童生徒が行う、江差の歴史や文化を素材とした学習の支援				
事業⑪：	広域連携による観光振興に向けた事業				
機関・団体：	市町村	：	江差町	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	みなみ北海道観光推進協議会／北海道歴史倶楽部／日本で最も美しい村連合				

事業⑫：	日本遺産による経済効果測定				
機関・団体：	自主事業	：	協議会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	北海道教育大学と連携した経済効果の測定と広報				
事業⑬：	100人の語り部活動の実施				
機関・団体：	自主事業	：	協議会	事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	語り部の募集と登録。活動の指標作成				